

## マリの伝統的な布

マリは、多様な民族によって構成される国です。それぞれの民族にとって重要な位置を占める伝統と布地に関し、各々特性を持っていることを理解しなければなりません。

かつて、衣服は純粹に職人の手仕事によって製造されていました。例えば、綿花は畑で収穫されたら、職人によりいくつかの過程を経て、衣服へと加工されていました。

**糸つむぎ**：綿花を畑で収穫した後、まずは種を取り出し、そしてつむげる状態にするため、梳綿（そめん）機を使ってほぐします。これらの仕事、つまり種の取り出し、梳綿機によるほぐし、糸つむぎは全て女性の仕事とされています。女性は、ほぐした綿を錘（つむ）にかけ、小さな糸玉を作るため綿から繊維を引き出し、よりをかけながら糸状にする作業を続けていきます。それから、糸玉を長い木の棒に通して紡錘状に巻き付け、それを機織り職人の所に持ち込むのです。



糸をつむぐ女性



機を織る男性

**機織り**：いくつかの情報を概観してみると、機織りという技術は、地球上の複数の箇所で同時多発的に発案されたもののようです。その機織りの中心地の一つが、マリであったとされています。11世紀以降マリの綿織物は、マリ中部の断崖に住むドゴン族（マリ先住民の一つ）によって発展してきました。

機織り機に付いている2つのペダルを両足で交互に動かすことで、機織り職人は縦糸と横糸を交差させて布を織っていきます。この作業を続けることで、長さ27m、幅10~13cmの1枚の布地が織り上がります。

そして、この細長い帯状の布地を切ったり合わせたりして衣服を仕立てます。裁縫は一般的に手縫いです。窮屈にならないよう緩めに一针一针縫われていきます。

**伝統的染色**：マリの伝統的染色は、藍（indigo）と泥（bogo）という2つの技術が基になっています

## 1. 藍染め：藍は、バンバラ語（マリの主要言語の一つ）でガラ（gala）と呼ばれる、コ



藍で染められた布

マツナギ属の植物の葉（Indigo tinctoria）から作られます。この葉は、マリでは雨期の終わり頃に摘み取られます。その後、葉をすりつぶし乾燥させて、染料として湿気のない所で保存されます。そして、これらの染料を小さく丸め、炭酸カリウムと一緒にゆでます。さらに発酵するまで数日間保存することで、藍の浸出液が出来ます。

このようにして完成した藍の一番浸出液で染めると、非常に濃い色に仕上がります。好みの色の濃さによっては、布地は繰り返しあるいは数日間浸出液に浸けられます。染められた布は最初、黄色っぽい色をしていますが、空気に触れ酸化することで変色し、左上の写真のような藍色になります。



絞り染めの布

模様を染め抜くためには、染色する前に、デザインに沿って糸で布を絞ります。すると右上の写真のように、絞った箇所が染められずに残って文様となるのです。こういった文様は、それぞれの民族のシンボルを表しています。

## 2. 泥染め：ボゴラン（bogo- lan : bogo = 泥、lan = ~によって作られる）

泥染めをするには、まず、アフリカ産カバノキ属の葉（バンバラ語で ngalama）の浸出液を作ります。そして、その浸出液と水を混ぜた黄色い染色液に布地を浸し、その後、布を天日に干します。

泥染めの泥は、粘土を壺に入れ、地中で数週間寝かせ発酵させて作ります。こうして出来たものを染料として使います。

布に模様を描くときには、細い棒の先にこの染料をつけ、布に直接手描きしていきます。モチーフとして好まれるのは、アフリカの自然や日々の生活、例えば狩りや釣りや動物などです。



染料の泥（左）と、泥で文様が描かれた布

布を天日に干すと、発酵させた泥に含まれる粘土物質が化学反応を起こして酸化します。乾いた泥を落としてすぐは黄土色なのですが、水で洗ってからさらに干すと、とても濃くて消えない黒い色になるのです。

伝統的なボゴランは黄土色と黒の 2 色使いですが、現代的なものはより装飾的で、白色も使用されます。白は、塩素とシア（アフリカの一部の地域にのみ生育する木）の実の石けん、アルカリ性洗剤などを混ぜて作ります。さらには、濃い赤や茶色もありますが、これらの色は、地元の木の樹皮や葉などを使用した自然の染料から得られます。

ボゴランの伝統的な柄は、装飾的であると同時に、それぞれ身を護る特別な意味があります。ボゴランの布は、女性にとっても男性にとっても、人生における様々な出来事（出産、割礼など）を柄によって明確に表すため、儀礼的に使用されてきました。時代の移り変わりと共に、象徴的意味合いを持つ様々な柄は、より華やかなグラフィックデザインへと取って代わられるようになりました。

ボゴランの本質は記号表現です。描かれる柄によって、それを身にまとう人々や村、あるいはその柄を描いた職人は誰なのか、などが識別できます。

全てのアフリカ芸術と同じように、ボゴランはとても力強い工芸品です。大地を素材に染められているため、生命エネルギーが染

み込ませてあると考えられています。

そしてそれが衣服を製造する布地として使用されるため、

人々は治療の効果があるとして、

割礼を受けた少年に着せていました。



バンバラ族の布



ミニアンカ族の布

全ての衣服は元来、モチーフや色ごとに、特定の用途に捧げられていました。それぞれの柄は複写され、象徴的で明確な意味を保持していました。今日、全ての伝統的な布地とボゴランの柄の意味は、大量生産の工業製品によって失われつつあります。

在マリ日本大使館

現地職員 ファンタ・トゥンカラ